



8号 令和3年6月3日

<学校教育目標>

ともに伸びる

校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



感謝の思いを自然に挨拶で表現できる子に!

これまでに、挨拶について、「校長だより」でお伝えしてきたことを今一度振り返ってみたいと思います。

『挨拶（あいさつ）の「挨」は「相手に心を開く」、「拶」は「相手の心にせまる」という意味。つまり、「挨拶」は、「相手よりも自分から進んでするもの」だということ。たとえ、相手から挨拶が返ってこなかったとしても、自分から進んでできたことを良しとする。このような思いで挨拶をし続ける大人が溢れるような環境になれば、子供たちも自然と挨拶をするようになるのでは……。『子供は大人の背を見て育つ』という言葉もあるように……。』（『校長だより』平成31年4月25日付「先輩から学ぶ 正しい挨拶の仕方、令和元年12月10日付「あいさつが返ってこないときに思うこと」

『（本校で取り組んでいる「4秒礼」は、「最敬礼」のこと。言わば、「礼」のMAXの状態。「走ること」でもMAXの動きが体得できているからこそ、ペースを緩める加減も調節できるというもの。「礼」の場合も、だからこそ「会釈」「いわゆる普通の礼」「準最敬礼」などの使い分けにつながるはず。本校で目指すのは、「4秒礼」に取り組むことで、場に応じた「礼」が適切にできること。』（『校長だより』令和3年1月21日付「4秒礼になぜこだわる？」

以上のことを踏まえ、現在本校が目指していることは……。校内での挨拶の習慣にとどまらず、校内外を問わず、すべての阿賀っ子が感謝の思いを自然に挨拶で表現できるようになること。校内での「4秒礼」の様子は、呉一と言ってもよいくらいの礼儀正しさです。このことが、例えば、登校時、横断歩道で見守りをしてくださる地域・保護者の方々に対する「おはようございます。」「ありがとうございます。」といった感謝の思いを自然に挨拶で表現できる様子につながっていくことがとても大切です。そうでなければ、いくら、校内で「4秒礼」ができて……。形から入る躰を、内面から湧き上がる感謝の気持ちから発する行動にまで高めること。このことに今まさに力を入れて取り組んでいるところです。それは、包み込まれるような愛情の中で育てられてこそ醸成されるもの。それによって、発せられるのが「本物の挨拶」ということでしょう。学校・地域・家庭が一体となって「本物の挨拶」ができる阿賀っ子を育てて参りましょう。



密を避けながら、新体カテストに取り組んでいます!



タブレットを授業でどんどん活用しています!



聖火リレーに参加された地域の方が、是非阿賀っ子にということで、トーチとユニフォームの展示提供をいただきました。